

短歌

令和八年度
第五十五回阿南市短歌会春季大会選

- 入選 満開の桜に送られ義母は逝く九十五才にあと三ヶ月 島 ちどり
- 入選 「院内で投票したよ」と今日特に夫の電話の声は明かるし 棚野 久子
- 入選 ほろほろと花びら解けていくごとくゆつくり日脚延びて立春 水口 明美
- 入選 離農して夫の使いし田植機を引き渡しの日まだ別れ難し 和渕 智子
- 入選 打ち明けるつもりで君を待っていた通り雨降る町のはずれで 小畑 久昭
- 入選 あどけなき素顔とおもう若者に指示され乍らバイトに励む 弘明寺 昭
- 入選 幸せなのか特殊詐欺にも迷うほど蓄えなくて八十路を生きおり 中山 善嗣
- 入選 世の中を斜に構えて生きている友を選んだ貴女を恨み 小畑 久昭
- 入選 春風が歩け歩けと背中押す老いどち二人杖曳き万歩 原 美智子
- 入選 宛先を印刷しないにチェック入れ共に過ぎせし時代を憶う 森本 仁美
- 入選 ホオジロの傷癒え放つ蒼空に吾口ずさむ「いい日旅立ち」 横山みつ枝
- 入選 鼓膜―ツチ(骨)―キヌタ(骨)―アブミ(骨)と伝う耳君の音だけ消えた現世 佐野 智子
- 入選 折り鶴の願い届かず弟は年明け五日星と輝く 大泉千代子

俳句

阿南市俳句連合会 選

- 覚悟せし藪蚊のをらぬ墓参かな 田中 栄子
- こぼれいく砂漠の砂に秋の色 吉崎 晶子
- 街の灯の空染めており虫しぐれ 岡久 玲子
- ひたひたと満ち潮寄する秋の夕 廣浦 保子
- せせらぎや清き秋風渡らせる 東條 明宏
- 刈り終えし稲田しばしの一休み 張本 雅宣
- 渡り鳥行き交う群舞空遠く 井利元正子
- 蓮ひらき天上の香に包まるる 金本ひろみ
- 踏みしめる土柔らかし秋の夜 東明 陽子
- 木漏れ日に小粒たわわに葡萄棚 柏木 暁代

川柳

阿南川柳会 選

- 蓮の葉へ月の雫をころがせて 神野 鈴代
- 老々介護最後をかざる花となる 佐藤つたえ
- ソーダー水の泡に昔の恋よぎる 篠原 良子
- 名城の石工懲りず石を積む 鈴木レイ子
- 恙なく過ごす余生のありがたさ 高木 旬笑
- 子育ての苦楽味い今を生きて 若木アヤ子
- お隣の草が気になるお節介 渡邊ろまん

一般応募

- 卒寿の日全部自分の齒に感謝 島尾美津子
- 情報ので海で老女の立ち泳ぎ 武田 敏子
- 暇ばかりの八十路の身だが草ばかり 福島 義明

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

- 秋夜讀書 高橋 静雄
- 梧影婆娑映弊帷 弊帷に映り
- 月光如水畫秋時 秋を画く時
- 忘吾最愛讀書候 最も愛す読書の候
- 一穗青燈一卷詩 一穗の詩

晩秋即事

- 菊綻黃葩晩節香 大野シゲ子
- 山粧秋色好風光 山は秋色を粧い 風光好し
- 後庭栗木野猿戲 後庭の栗木 野猿戯れ
- 天放奇聲號夕陽 天に奇声を放ち 夕陽に号ぶ

青年を送る

- 時勤特使壯途筵 吉形 和恵
- 嘗盡離杯殘月懸 離杯 嘗め尽くさば残月懸かる
- 行矣男兒遙指處 行け男兒 遥かに指す処
- 期君更勵米洲天 君に期す更に励め米洲の天

